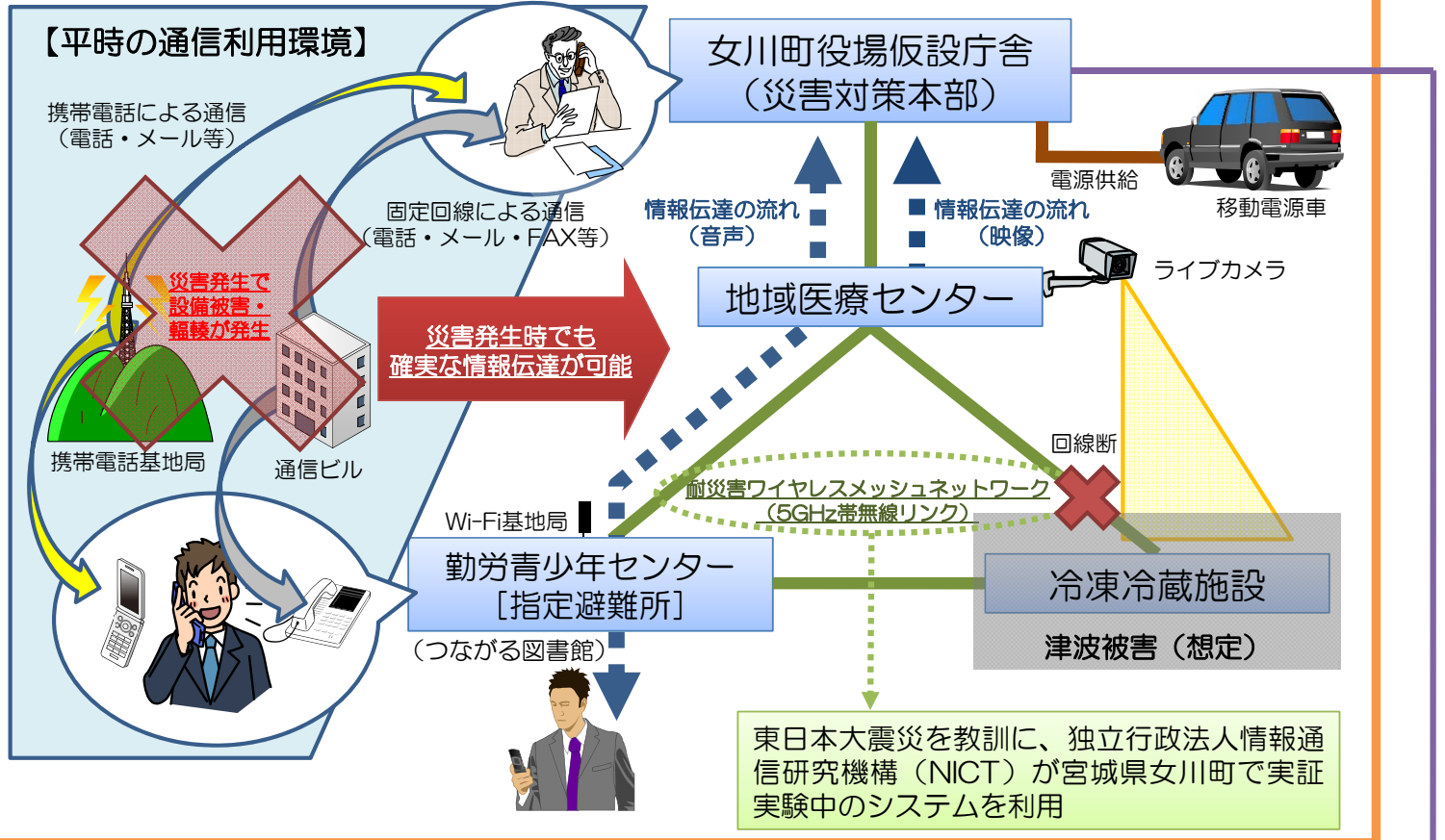
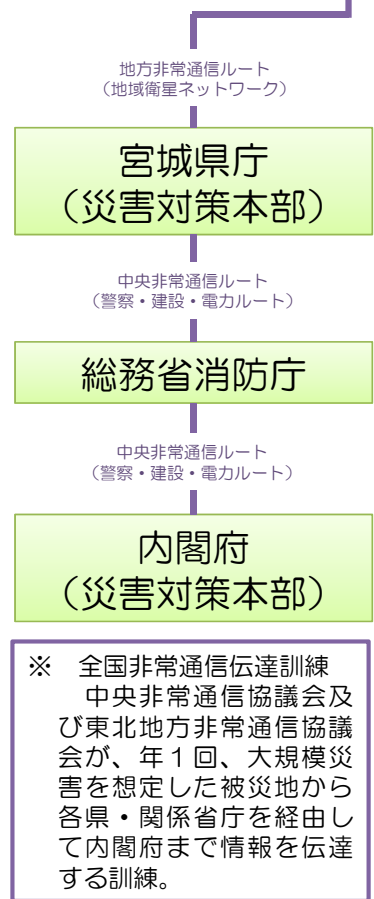


1 耐災害ICT研究成果「耐災害ワイヤレスメッシュネットワーク」を活用した 宮城県女川町「非常通信訓練」の概要

女川町内（耐災害ICT研究成果の活用範囲）



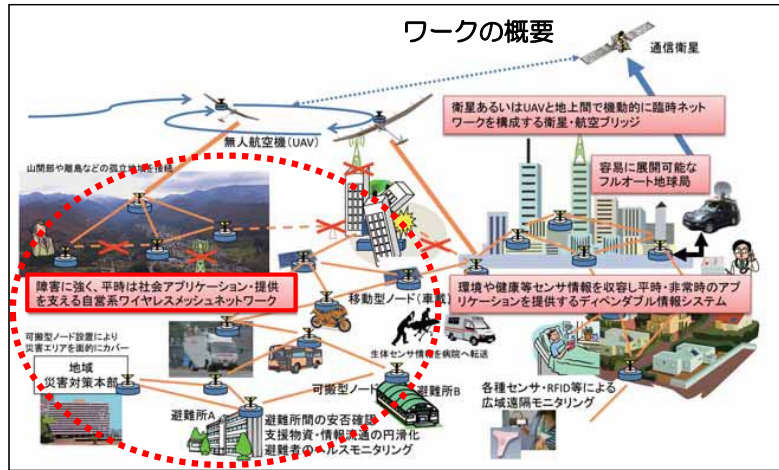
訓練の概要	
13:15	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 宮城県沖を震源とする地震発生（M7.0、震度6弱） ◆ 津波警報発令・沿岸部に避難指示発令 ※ 住民への情報伝達は訓練の対象外 <p>【被害想定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広範囲で停電が発生 ・ 通信設備への被害や通信の輻輳により電話やメールが繋がりにくい状況が発生（インターネットも繋がりにくい状況）
14:00 (訓練開始)	<p>【女川町災害対策本部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ライブカメラで津波被害状況を確認 ・ 勤労青少年センター【指定避難所】への避難状況等を確認 ⇒ 勤労青少年センター【指定避難所】に「耐災害ワイヤレスメッシュネットワーク」の音声アプリで連絡 <p>【勤労青少年センター【指定避難所】】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 避難状況を確認して女川町災害対策本部に報告 ⇒ 女川町災害対策本部に「耐災害ワイヤレスメッシュネットワーク」の音声アプリで報告
14:15	<p>【女川町災害対策本部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ライブカメラの映像及び勤労青少年センター【指定避難所】からの避難状況等の報告に基づき被害状況を取りまとめ ⇒ 宮城県災害対策本部に「地域衛星通信ネットワーク」のFAXで報告
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 女川町災害対策本部（女川町仮庁舎 2階会議室）において、以下のとおり報道関係者に訓練概要等の説明を実施します。 13:30～ 訓練概要及び耐災害ワイヤレスメッシュネットワークの概要 14:30～ 勤労青少年センター【指定避難所】と女川町災害対策本部の間の非常通信訓練の結果概要 ◆ 全国非常通信訓練は、16:00頃まで継続します。 往路：宮城県→国土交通省→消防庁→内閣府（防災担当） 復路：内閣府（防災担当）→消防庁→国土交通省→宮城県→女川町（災害対策本部まで） 	



2 「災害に強い情報通信技術の実現に向けた研究開発」の成果 耐災害ワイヤレスメッシュネットワークの特徴

■ 災害時でも通信が途切れにくいネットワーク

- 複数の固定型の無線局を網の目状（メッシュ状）に無線で接続し、一部の無線局が災害等により損傷を受けても、他の生き残った無線局が相互に協力し、全体として通信機能を最大限維持することができる。
- 各無線局がデータを一時蓄積する機能や無線局間でデータを共有する機能を有することで、インターネットへの接続が途絶した場合でも、無線メッシュネットワーク内で通信の相手先を見つけ、通信を確保することができる。
- 利用者端末間で安否確認や情報共有、位置情報配信などを行うことができる。



■ 携帯電話等が利用できなくても音声通話が可能

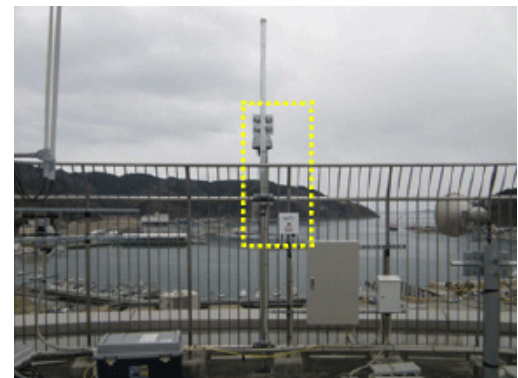
- 「音声通話用アプリケーション」を活用することで、携帯電話やインターネット等が使えなくとも、耐災害ワイヤレスメッシュネットワークのWi-Fi基地局のエリアであれば、あらかじめ登録した相手方と音声通話が可能



【システムの設置場所：独立行政法人情報通信研究機構のプレスリリースより】



【地域医療センターに設置された無線機器】



【地域医療センターに設置されたカメラ】

独立行政法人情報通信研究機構(NICT)が女川町との間で研究協力に関する覚書を取り交わし、平成26年3月から「耐災害ワイヤレスメッシュネットワーク」を構築して実証実験を実施中